

オランダの労働安全衛生制度について

2024 年 3 月改訂版

タイトルページ

オランダの労働安全衛生制度についてー2024 年 3 月改訂版

オランダの労働災害発生状況の水準は、後に本稿の「第Ⅲ部 オランダの労働災害発生状況（職業性疾病を含む。）」で紹介するように、死亡災害発生率は EU 加盟 27 カ国及び英国と比較すると最も少ない水準であって、2021 年の労働者 10 万人当たりの死亡災害発生率 0.33（2020 年では 0.3）です。これは、相当するデータとしては、日本（2020 年では 1.45、2021 年では 1.44、2022 年では 1.42）及びアメリカ合衆国（2020 年では 3.4、2021 年では 3.6（2022 年については未公表））よりも非常に低くなっています。

また、オランダの休業 3 日を超える労働災害発生率は、EU 加盟 27 カ国の中でも低い水準にあり、2019 年では 92,838、2020 年では 76,857、2021 年で約 82,420 となっている（以上 Eurostat 統計から引用）。これらのオランダの発生率は、日本（休業 4 日以上及び死亡災害が対象（公務従事者は含まない。）の 2019 年（令和元年）の約 220）（年千人率である 2.2 を年 10 万人率に換算した。以下同じ。）、2020 年（令和 2 年）の約 230 及び 2021 年（令和 3 年）の約 270 並びにアメリカ合衆国（休業 1 日以上の災害が対象（民間産業））の 2020 年では約 1,200（年百人率では 1.2 であるが、これを年 10 万人率に換算した。以下アメリカについて同じ。）、2021 年では約 1,100、2022 年では約 1,200 よりは多くなっている。

このようなオランダにおける労働災害防止対策のかなりな成果は、オランダの労働安全衛生を所管する行政機関、関係団体、これらの活動状況等によるものといえることができる。

このような観点から、本稿では、オランダの労働安全衛生制度を紹介する。

なお、本稿は、2022 年 1 に国際センター（当時）のウェブサイトに掲載した記事について、その後の最新の資料に基づいて必要な部分を改訂したものです。

2024 年 4 月

中央労働災害防止協会技術支援部国際課

(別記)

第Ⅰ部 オランダの国情	外務省のウェブサイトー国・地域ーオランダ王国 (https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/netherlands/index.html 、令和３年１０月２５日版)、内閣府月例経済報告の主要経済指標の国際比較の最新版等に基づき、必要な個所を改訂しました。
第Ⅱ部 オランダの労働安全衛生を所管する行政機関、関係団体、これらの活動状況等について	オランダの労働安全衛生システムに関する欧州労働安全衛生機構（EU-OSHA）の Focal Point（オランダ）のウェブサイトにある記述等に基づき、全面的に改訂しました。
第Ⅲ部 オランダの労働災害発生状況（職業性疾病を含む。）	Eurostat が 2023 年 10 月 5 日に公表した最新の労働災害統計、オランダの職業性疾病発生状況についてはオランダ産業病センター（NCvB）が公表している最新の統計、オランダとの比較のために日本の厚生労働省及びアメリカ合衆国労働統計局が公表している最新のデータ等に基づき、必要な部分を改訂しました。
第Ⅳ部 オランダの労働安全衛生法制について	オランダの労働安全衛生法制が掲載されている関係するウェブサイトに記述されている最新の記事、資料等に基づき、必要な部分を改訂しました。
第Ⅴ部 参考資料、参考文献、情報源等	これらについて、関連する最新のウェブサイトアドレス、掲載されている関連する資料の内容等を確認して、全面的に改訂しました。